2023、7、23(月)

(第3種郵便物認可)　十勝毎日新聞

経済成長は観光で

4年ぶり「とかち創生塾」

立教大前総長 郭氏が講演

有識者の講演などを通じ、地域活性化について考える「とかち創生塾」(塾長・進藤榮一筑波大大学院名誉教授)の第51回セミナーが22日、帯広市内のとかちプラザで開かれた。立教大の前総長の郭洋春教授が「100均資本主義から見える日本社会の将来」と題して講演した。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で4年ぶりの開催。約30人が参加した。

4年ぶりに開かれたとかち創生塾

郭氏は現在の日本を低成長かつ低賃金社会とし、「100円ショップをはじめとする激安ショップが人々の生活を支えている」と語った。「低所得状態・欲望が減退しても、他人の生き方に左右されず、豊かに生きていける社会」を「100均資本主義」と定義。100円ショップでは必要品のほかに便利グッズやアイデアグッズがあり、「ちょっとした工夫で生活が楽しくなり、納得感と自己肯定感が生まれる」とした。

今後、日本経済の成長の鍵は観光と指摘。観光の活性化は他産業への波及効果や、日本社会の国際化などにつながると主張した。日中韓観光共同体の創設を提唱し、「草の根レベルの交流が広がれば、平和にもつながる」と述べた。

十勝シティデザイン創設者の柏尾哲哉氏が、「新たな視点で帯広中心市街地再生を考える―十勝全域を活性化させる事業構想」と題して講演し、進藤塾長(帯広市出身)は「日本の戦略力をどうつくるか―コロナ・ウクライナ戦争後の十勝帯広の生き方」をテーマに講話した。(津田恭平)

※後日、講演要旨を掲載

温泉や食材 十勝は優位

進藤塾長来社

「十勝の観光のポテンシャルは高い」と話す進藤塾長

とかち創生塾の進藤榮一塾長はセミナーに先立ち、21日に十勝毎日新聞社を訪れた。今後の十勝経済の発展に向け、観光に力を入れるべきと主張した。

十勝について、「草原や山並み、冬の景色など、他にないものがたくさんある。温泉もあり、食材も豊か。観光産業のポテンシャルは高い」と述べた。

十勝への大学誘致も以前から提唱しており、「20年前に十勝公立大学ができていれば良かった。1000～2000人の学生が住み、卒業後に家族が増え、人口が増えていけば地域が豊かになった。いまからでも遅くはない」と語った。

2000年に始まった創生塾について、「セミナー終了後は毎回懇親会を開催し、人と人の関係をつくり上げる拠点になっている」と意義を強調した。(津田恭平)